

談呆国憂

season 2 VOLUME 55

今月の憂いTOP

3・11後の建築論から、
名優・菅原文太の逝去、
アベノミクスの失速、
衆議院総選挙の結果まで！

衆議院総選挙で慌ただしい年末の東京、
墨田区にある「マキネスティコーヒー」で
こだわりの豆や焙煎機を見せてもらいながら、
自慢のコーヒーとアップルパイを味わった田中・浅田両氏。
新しい年を迎える日本の未来を語り合った。

photographs by HiroshitaKaoka text by Kentaro Matsui

憂

浅田彰

田中康夫

東京五輪の開会式は、 皇居前広場で開催？

田中 建築家の磯崎新が有楽町の日本外国特派員協会で、東京オリンピックのメインスタジアムに関して会見した。当初の総事業費1300億円に現競技場の撤去費用も設計監理料も含まれていないと判明するや文部科学省は3000億円に倍増。さらなる批判を浴びると再び1600億円に半減。その定見のなさを指摘されると審査委員長安藤忠雄が最優秀賞に推したザハ・ハジドに「修正案」という名の矮小化を求めた。それは「まるで列島の水没を待つ亀のような鈍重な姿」だと磯崎は指摘。ハジドに再設計させると同時に、オリンピックのフィールドとセレモニーを分けて考えるべきと指摘した。

浅田 磯崎新は、香港のコンペで一次審査で落とされたハジド案を拾い上げて当選させ、彼女を世界的なスターにした張本人だから、責任を感じてるのかも。

1964年の東京オリンピックの頃は、開会式も高校野球なんかとそう変わらない簡単なものだったのに、TVのためのオリンピックとなった今は、大々的なスペクタクルで盛り上げなきゃいけなくなった。それなら、スペクタクルとしての開会式はスタジアムとは別の所でやればいい、と。

田中 会場の観客10万人だけでなくTVやネットの前の世界中の10億人に印象深い開会式とすべく、二重橋の皇居前広場に棧敷席を設けて実施せよというのが彼の提案。天皇・皇后は不本意だっただろうけど、99年の今上天皇即位10周年の祝典行事でX JapanのYOSHIKIにピアノを演奏させた前例はあるわけだし。

浅田 どこでやるにせよ、クールジャパン方式の演出だけはやめてほしいな。歴史を顧みて東京大空襲から始めるっていうたけしの案は面白いかも(笑)。

田中 磯崎は岡本太郎や黒川紀章、イサム・ノグチやスーザン・ソングタグといった今は亡き50人への思いを語る『挽歌集』を上梓した。副題が「建築があつた時代へ」。求められるままに造るばかりで、時代を創る建築となつていかなかったことへの複雑な思いが感じられる一冊だった。

浅田 丹下健三直系の建築家であり、芸術文化のほぼすべてのジャンルに通じた教養人である磯崎新にしか書けない本だね。そういう建築家は彼で終わりかも。

ポンピドゥー・センターのフレデリック・ミゲルーをキュレーターとする「ジャパン・アーキテクツ 1945-2010」展が金沢21世紀美術館で開かれている。戦後の黒がグレイになり、1970年万博の頃にカラフルになった後、いまは白から透明になったというイメージ。

磯崎建築はそこでも核のひとつにたつてるけど、白あるいは透明な現在を代表するのはSANA A(妹島和世&西沢立衛)なんだよね。同時に日本側は五十嵐太郎と山崎亮をキュレーターとする「3・11以後の建築」展を同時開催して、こっちはコミュニティ・デザインとかソーシャル・デザインとかいうのがほとんど。建築家はモデレーター兼デザイナー・コメンタリーとして人々の要望を聞き出してまとめる、と。一見、民主的だけど、公共施設をつくる時反対しそうな人も最初からデザイン・プロセスに巻き込んでガス

抜きをする手法とも言えるし、そもそもラディカルなデザインが生まれる余地がほとんどない。そういうのがやたらに明るい展示室に並んで、陰翳に満ちた空間に傑作群が並ぶ「ジャパン・アーキテクツ」展との対照が印象的だった。

田中 的確な認識・迅速な決断と行動・明確な責任のいずれも行い得ない、前例踏襲の単なる調整型の行政のリーダーと同じで、自分のヴィジョンを最初に出さない。

浅田 ラディカルなヴィジョンによって、コミュニティが意識してなかった地域の特性を浮き彫りにするのが建築家の役割なのに。

ただ、他方では資本主義が公的なものをしのぐ力をもつようになって、建築家の仕事はますます難しくなつてきている。マンハッタンのワールド・トレード・センター跡地のコンペで、ダニエル・リベスキンドのマスタープランが選ばれた。批判はあるけど、それなりにラディカルなプランであることは認める。ところが、それは地割りで割ってことになり、建物は個々の地権者が勝手に建てることになつてしまった。いちばん高いIWT Cだけはリベスキンドも設計に加わ

ってんだけど、結局は脇に追いやられて、大手事務所SOM(スキッドモア・オーウイングズ&メリル)のデイヴィッド・チャイルズが設計することになった。長いアンテナをつけて、リベスキンドのマスタープランにあったアメリカ独立の年号になむ1776フィートの高さを辛うじて確保したトンデモ建築で、窓拭きのゴンドラが宙吊りになったため、非常時に備えて3重になつてガラス窓を必死で割って中か

ら救出したつてのが、最初に話題になつたニュース(苦笑)。かつてのロックフェラー・センターやリンカーン・センターのような大きなまとまりを生み出すことはもう難しいのかも。

高倉健、菅原文太。 昭和の大スターが逝去。

浅田 高倉健に続いて菅原文太も亡くなつた。昭和の大スターが続々と退陣しつつある感じだね。菅原は俳優業から農業に軸足を移し、3・11後は原発や集団的自衛権容認にも反対してた。そういう意味でも貴重な存在だったと思う。田中さんは彼とどこで知り合ったんだっけ？

田中 随分と前だけど、最初はいつだろう。とりわけ知事時代には僕を評価してくれて、ガラス張り知事室で対談したり、僕が回答者の「クイズ\$ミリオネア」にサポーターで出演してくれた。山梨県で自然農法に取り組んでいて、童土おひさまの里農園を訪れたりもした。亡くなる直前に沖縄県知事選の1万人大会で「仲井真さん、弾はまだ一発残つとるがよ」と「仁義なき戦い」のセリフで唄んだのが最後だった。立派な見識を持ったアンガージュマンだった。

浅田 81歳だから一応は天寿をまっとうしたと言えそうだけど……。

田中 いやいや、瀬戸内寂聴女史のような人もいるよ。

浅田 90歳を超えて『死に支度』って本を出してもまだまだ元気。寂聴と横尾忠則は死ぬ死ぬと言って死なないんだな。三島由紀夫が死ぬと決めた日を目的として生きたのに対し、横尾はむしろ死の擬態から出発し(自分の首吊りのポスターをつくらるとか)、



それを反復し続けている。

田中 大したもんだ。

浅田 横尾が憧れる人とのツー・ショットを篠山紀信が撮るつてのを三島から始めてずつとやって、横尾忠則現代美術館で「記憶の遠近術」展として開催してる。高倉健と撮ってる写真もあって、圧倒的な迫力だよ。

高倉と言えば『単騎、千里を走る。』っていうチャン・イーモウの映画がある。病に倒れた民族学者の息子の代わりに、父親役の高倉が中国の奥地まで行く話で、セミドキュメンタリー的に撮られてるから、彼の中国での人気がよくわかった。文革後、最初に中国で上映された外国映画のひとつが、高倉健主演の『君よ憤怒の河を渉れ』で、冤罪がテーマだったこともあって大ヒットになるんだね。

田中 中国の人民は、身につまされたのかも知れないね。

浅田 中国といえば、香港の民主派のデモがとうとう排除されたね。学生組織と連携してきた民主派団体のオキュパイ・セントラルの発起人3人が、学生に犠牲を出すわけにはいかないっていうんで、自主的に当局に出頭した。学生たちも、ハンガー・ストライキなんかをやったものの、無駄な抵抗は控えた。大したものだと思うよ。むしろ、本土への波及を恐れて弾圧一本槍の習近平の余裕のなさが問題でしょう。

田中 確かにね。とはいえ、理念で集った人々は市民運動が職業ではなく、他に仕事や家事や勉強があるから、時間が経過すると疲弊してしまう。デモ隊の中にも当然、中国共産党側の人間が攪乱要員として忍び込んでいただろうし。ダム建設と同じで、利権で集う人間が一条乱れず初志貫徹する

のと対照的。これは神戸空港の住民投票運動に参加し、県知事を務めた僕の経験に基づく実感でもある。その意味では台湾で、ひまわり運動が一定以上の成果を収め、その後の統一地方選挙でも与党の国民党が歴史的な敗北を喫したのも、海峡を隔てて巨大な中国と常に向き合っていたらこそだ。

浅田 とにかく香港も台湾も中国のゴリ押しがいかにも嫌われてるかを明確に示してる。習近平が懐の深さを見せるチャンスでもあるんだけど、自分たちの脆弱性をいちばんよく意識してるからすぐに逆ギレするんだな。そこは安倍晋三に似てるかも。

田中 江沢民が背後に控える軍産官民複合の既得権益集団と闘い続けねばならぬ習近平は依然として胸突き八丁とも言える。思うんだけど、共産党体制の永続が至上課題の中国は、その意味では冷酷無情に、アヘン戦争で悪行の限りを尽くしたイギリスが現地の優秀な人間を登用して統治させ、現



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。

地住民から搾取したディヴァイド・アンド・コントロールの植民地政策に学んで、新疆ウイグルあたりにそうした自治政府を設けていく手はある。無論、それに賛同するわけでは決していないけど。

浅田 アメリカでは各地で白人警官が黒人を誤って殺しちゃう事件が相次ぎ、連邦大陪審が警官を不起訴としたことでデモが起こってる。ところが、黒人初の大統領であるバラク・オバマは、懸念を示すだけで何もしようとしな。黒人初の大統領になつたことが最大の業績なんで、失敗しないよと言えるし、ブッシュ・ジュニアが内外に残した負の遺産を背負わされて、もうバカなことをしないってのを基本方針にしてるのは間違いじゃないと思うよ。それにしても彼の手法は弁護士的すぎる。既成の枠組みの中で落としどころを探るばかり。枠組みそのものを組み換えるヴィジョンを出す

消費税を8パーセントに上げ、本来その負の効果を乗り越えるために行われた

アベノミクスは失敗に終わった。(浅田)

のが大統領の仕事なんで、国民はそれを期待して彼を選んだのに。

田中 黒を白、白を黒と言いくるめる法廷での駆け引きが生き甲斐の弁護士という人間が政治や行政に携わる不幸だね。先月も触れた宇沢弘文じゃないけど、経済だけじゃなくて法律も人間の心を持っていないとね。真のプロフェッショナルとは何か問われてる。日本では京都大学の構内に警官が立ち入った。熊野寮は一般の学生とは異なる活動家の拠点になっているのだけれど、だからって、学内に警官が別件捜査のような具合に立ち入っていい訳じゃない。なのに、立ち入り当然みたいなネット上の反応には驚くよ。公権力の横暴だ、みたいな相変わらずの硬直した言説を振りかざす面々も困りものだけだ。

浅田 過激派って言ってもいまやマイナーな存在だよ。前日に覆面の公安警察官が京大構内で学生に見つかって取り押さえられた。それで大恥をかいた警察が意趣返しにやっただけでしょう。

田中 警察組織にも亀井静香的な心智の人間がいなくなっちゃったからね。浅田 昔はデモのときでも機動隊のヴェテランがいきり立つ部下を抑えてただけだね、やり過ぎるな、と。

ちなみに今回の『ソトコト』は喫茶店特集だけど、京都大学に近い進々堂のほか、四条木屋町あたりに『フランソア』って喫茶店が昔からあって、フランス人民戦線の機関誌『Vendredi(金曜日)』にならって『土曜日』っていう左翼系週刊誌を発行してた中井正一をはじめ、戦前の人民戦線派のたまり場だった。近年でも鶴見俊輔なんかがよく行ってたな。フランス人民戦線が成功したのはヴァカンスを導入したからだ、



と。そういう柔軟な政治文化の土壌として
喫茶店があったってのは面白いね。

アベノミクスの失速。 総選挙で何が変わる？

浅田 年末に衆議院が解散されて12月14日に総選挙が行われたけど、まったく盛り上がりなかったね。消費税を8パーセントに上げ、本来その負の効果を乗り越えるために行われたアベノミクスは失敗に終わった。安倍政権は、10パーセントに上げるのは延期しつつ、景気条項を撤廃して次回は必ず上げるって言うてるけど、そのとき今より景気が悪くなってたらどうするんだ？。そもそも引き上げ延期は景気条項に従ってできるんで、改めて民意を問う必要はない。内閣改造後に関係の政治資金問題なんかで足元がぐらついたから、野党の準備ができてないいま選挙をやって仕切り直そうっていう個別個略の暴走だね。

田中 ブラックな3Kどころか景気・雇用・基地・北朝鮮・自身の健康と5Kな袋小路から脱出しようと6Kで改造したら、ラッキーセブندどころか7Kは大臣の金銭。そこで羊頭狗肉な「保守派」が大好きな国家（苦笑）の中国では8がラッキーナンバーだからと解散で8K。確かに自公両党で3分の2を占めたけど、自民党は5議席の減少だった。「景気回復、この道しかない」と訴えたけど、「この未知」という異次元を謳った黒田バズーカとアベノミクスの先には、北原白秋・山田耕筈コンビの童謡「この道」の歌詞じゃないけど「いつか来た道」既知の道が待ってる気配だね。早くも投票の夜には憲法という9Kを言い出した。野口悠紀雄が具体的なデータに基づいて、4月の消費税増税に関係なくすでに1年前

理念で集った人々は 市民運動が職業ではなく、 他に仕事や家事や 勉強があるから、 時間が経過すると 疲弊してしまう。(田中)

の2013年4月以降、実質雇用者報酬が減少しており、それが実質消費の減少とGDPのマイナス成長の原因だと「ダイヤモンド・オンライン」で見抜いている。なのに、「朝三暮四」の逆ヴァージョンのような消費税率の引き上げ先送り解散。

浅田 10パーセントに上げることが事実上国際公約したのに、それを棚上げしたものだから、ムードイーズが日本の国債の格付けを下げたのも当然。

田中 日銀の政策委員会で追加緩和策は5対4で決まったけど、賛成したのは総裁、副総裁2名、大学教授2名。反対した4人が全員、民間企業・金融機関出身だったのは象徴的。実はゴールドマンサックスみたいな「投資家」は年末に向けて株をどんどん空売りしていきわけ。その前の段階として今上がっているとも考えられる。この『ソトコト』の発売直前にあたる年末には株価は急落しているかも。



浅田 彰

あさだ・あきら●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

浅田 バブル的に無理な円安と無理な株高を煽ってるわけで、非常に危ないね。さすがに選挙の討論でもアベノミクスの失敗は隠しようがない。ところがそれを指摘されると安倍は「ほかに方法がありますか？」と逆切れする。あるよ、そんなの（苦笑）。無謀な戦争を始めちゃったからもうやめられないって言うてるようなもの。

田中 まさに「この道しかない」とサイパンのパンザイクリフに向かっている（涙）。雇用が100万人余り増えていると言っているけど、実は正規社員の雇用は20万人ほど減って、非正規社員が120万人以上増えたからそんな数字が出てきているだけ。

あるいは、保育を無償化して子育て支援をするって掲げていたはずが、お金がないからできませんと言いつつ、下手なマジックを使うんだったら、子育て支援のためにも8パーセントへの増税はやむを得ないと言ったほうがまだ誠実だ。しかもお金がない

から40人学級に戻すと財務省が言い始めた。即日、内閣として否定するかと思いきや、沈黙している。さらにはこのメディアも問題視しないって、どういうことよ。全国で唯一、借金を6年連続で減らし、他方で30人学級を全国で最初に6年生まで導入した僕からすれば、信じられない。

浅田 それやこれやで安倍政権のメッキははがれちゃったけど、いかんせん、それに代わりうる野党がない。いわゆる第三勢力は虚を突かれてほぼ壊滅状態。おかげで民主党はやや挽回したものの、党首の海江田万里が落選、政権交代はまだまだ遠い夢。総じて、投票率が低く、野党がより大きく負けたため、自公が大勝するっていう絶望的な状況だね。個別個略の解散だったけど、それが本当に安倍政権に有利に働くかどうか。そう言えば、小学4年生になりすまして「どうして解散するんですか？」ってサイトを立ち上げた青木大和って大学生を、安倍が「facebookで「批判されにくい子供になりすます最も卑劣な行為」って批判してたけど（後に削除）、仮にも一国の首相が一介のバカ学生を攻撃すること自体、どうかしてると思うよ。批判されると自分が弱者であるかのように逆切れる安倍の最悪の部分が出た。

原発問題でも財政問題でも発言できない未来の世代に負担を負わせる安倍の政策こそ「最も卑劣」じゃないのか。

田中 いいね！ボタンを1万人以上が押すなんて集団リンチだよ。会社の社長が一若手社員の書いたのを全社会議で罵倒しているようなもの。それでいて厳しい質問が予想された外国人特派員協会の会見はキャンセルしたのだから、いやはや、北原白秋と山田耕筈も泉下で嘆いてるよ。